2025 フクシマ連帯キャラバン報告書

関東地方横浜支部港栄分会
青年部員　間宮浩貴

福島第一原発事故の被害者について考えると、彼らが直面した困難の深さに胸が痛くなりました。

震災直後、避難を余儀なくされ、多くの人々が故郷を失い、生活基盤を崩されました。避難生活は長期化し、2025 年現在でも約 2.4 万人が避難を続けています。避難者には放射線への不安や差別、孤立などの精神的な負担も重くのしかかっています。それでも、復興に向けた努力は続いており、除染やインフラ整備が進む一方で、帰還する住民は少数にとどまっています。また、新しい地域で生活を築き直した人々も多く、故郷への帰還を選ばない理由も理解できます。

この状況を通して私は、災害が人々の人生に与える影響がとても大きいことを痛感しました。復興には時間がかかりますが、被害者一人ひとりの声を聞きながら支援を続けることが必要だと思いました。